

外郭団体ミッション遂行評価票

【令和2年度取組結果】

団体名	皿倉登山鉄道株式会社
-----	------------

所管課	産業経済局 観光課
-----	-----------

団体に対するミッション
本市の代表的な観光地の一つである皿倉山山頂への唯一の公共交通手段である皿倉山ケーブルカー等を運行することで、夜景観光の集客など皿倉山周辺地区への本市の観光戦略の一翼を担う。

行財政改革大綱における見直し内容
今後も、平成22年度に策定した「経営改善計画」に基づき、健全経営の維持に努める。

ミッションに基づく中期計画

3~5年後に目指す状態	着実な経営改善に取り組む。
-------------	---------------

主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）							
	H28	H29	H30	R1	R2		R3	R4
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
当期純利益	20,146千円	21,537千円	24,719千円	2,849千円	当期純利益の確保	4,534千円	当期純利益の確保	
純資産	41,308千円	62,846千円	87,565千円	90,413千円	黒字	94,947千円	黒字	
長期借入金	61,400千円	61,400千円	56,300千円	51,200千円	市借入金の確実な返済	46,100千円	市借入金の確実な返済	

ミッションの遂行状況の評価（令和2年度）

団体における評価	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4/1~6/18の79日間運行を休止した間、運賃収入がなかったが、10月~3月の市による需要喚起策（魅力再発見パスポートやトクトクプラン）等により黒字となった。	市の評価	新型コロナウイルス感染拡大による利用者の減や休業がありながらも、夜間運行の拡大や関係団体との共同事業及び本市の需要喚起策といった取組みに加え、持続化給付金や雇用調整助成金の活用により、令和2年度の収支は黒字となった。これは、コロナ禍という厳しい状況において、当該団体ができる範囲で積極的に取り組んだ結果であり、評価できるものと考えます。
今後の課題及び見直し内容（案）	経営改善のために行った人件費削減策のため、現在人材不足によりケーブルカーのメンテナンス技術の伝承等ができていない状況であり、技術の確実な伝承のための人材確保、組織作りが急務である。また現在のコロナ禍の中で感染防止、安全運行に務めてはいるが、激減した運賃収入の回復をどう図るか見えない状況である。今後も、市と一体となって、集客促進策やイベントの実施に取り組んでいく。	団体への改善指導内容（案）	昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で、感染拡大防止に係る経費の発生が見込まれ、観光客の動向についても不透明な状況にあるが、その都度必要な対策を講じ、健全経営の維持に最大限の努力を求める。

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況

見直しの分類	特に経営状況を注視する団体
平成22年度に策定した「経営改善計画」に基づき、健全経営の維持に努めている。令和2年度も、コロナ禍において、休業や利用者の減がありながらも、夜間運行の拡大や本市、関係団体との共同事業等を実施し増収対策に努め、収支は黒字となった。	